

## 小泉で「羊小屋づくり」 (5月14・15日)

5月14～15日の2日間、市内北部の小泉地先で、コイズミ棚田再生研究会が「羊小屋づくり」を実施されました。

2日間の参加者は延べ19人で、冬の雪で倒れた杉を活用して、羊小屋を完成させました。中には大阪から参加された方もあり、市外からの注目も伺えました。

研究会では田植えなど、棚田保全を目的とする様々なイベントを計画されていますので、関心がある方はいっしょに汗を流さてはいかがでしょうか。



## 伊吹山山頂美化活動(5月18日)

5月18日に、伊吹山を守る会などが主体となった伊吹山山頂美化活動が実施され、当日は市長を含めた65人が参加されました。現地では、中央遊歩道、西遊歩道の中に倒れている保護柵を木杭110本で補強したり、ごみを拾ったりする作業を実施しました。

伊吹山の山頂付近には約300種もの山野草のお花畑が存在し、初夏には百花繚乱の可憐な花のじゅうたんが広がります。貴重な固有植物生を守るためにも、伊吹山を大切にしていきたいですね。



木々の新緑が鮮やかになり、雪の多かった姉川上流地域も一年で最も輝く季節を迎えました。

そのような中、過疎・高齢化が進むこの地域を活性化する原動力として活躍いただく5名の「水源の里まいばらみらい・つくり隊」の皆さんが、4月から集落に移住して、地域の活性化に向けた活動とともに、成し遂げたい自らの夢（未来）の実現に向けた活動をスタートされました。

先日も皆さんと語り合いましたが、地域に溶け込んで、素晴らしい自然や風土、地域資源を活かした観光や農業などの魅力を全国に発信し、それぞれの個性を活かして地域を盛り上げていこうと意欲満々です。

本市には、豊かな自然環境や歴史文化など、全国に誇れる「ほんもの」が数多く存在していますが、住民にとっては当然のものとして、その素晴らしさが見過ごされてきたことも事実です。私は以前から、これらを掘り起こし、磨きをかけて広く発信することが、地域おこしの原点だと考えてきました。

これには、「ほんもの」に気づく者、仕組みをつくる者、活動する者、発信する者など、それぞれが役割を分かち合い、力を合わせて進めていくことが重要であり、市内各地に存在する「ほんもの」への『気づき』を地域住民で共有し、まちづくりに発展されることを願うところです。

これからのみらい・つくり隊員の活躍に期待するとともに、地域の皆さんには、隊員の『気づき』の視点を支え、見守っていただきますようお願いいたします。



米原市長 泉 峰一

(6月1日記)